

看護サービスの段取り力 ～現任教育の視点からみた段取り力の分析～

高知県・高知市企業団立高知医療センター
○ 寺岡 美千代
国立大学法人高知大学医学部附属病院
北村 真紀（6階西病棟）
高知赤十字病院
川田 千和
特定医療法人久会図南病院
和田 美紀子
特定医療法人仁生会細木病院
弘田 美貴
新松田会愛宕病院
平井 しのぶ
高知女子大学
井上 正隆

キーワード：段取り力 現任教育 看護サービス

はじめに

看護サービスの現場では、看護師の仕事は多岐にわたりその仕事量は増大しており、看護師は、限られた時間の中で看護の質と作業効率を高めることが求められている。経験を積んだナースの看護の実践能力は、さまざまな情報を整理し優先順位をつける段取りと共通するところがあると考えた。そこで、段取りを構成する要素の中で何が大きな要素を占めているのかを分析し、看護師個々の段取り力を高め、効率的な看護サービスへの向上につながる現任教育への示唆を得たので報告する。ここでは「看護サービスの段取り力」を看護師個人が持っている能力や同僚の能力が効率的に発揮できるように、チーム内で協力し、業務を調整計画、実施し、状況に合わせて再調整する力と定義した。

【研究目的】

看護サービスにおける段取り力を構成する要素の中で、どの要素を高めれば、看護師個々の段取り力の向上につながるかを知り、看護の質と効率的な看護サービスの提供につながる現任教育への示唆を得る。

【研究方法】

1. 研究デザイン

質問紙を用いた実態調査型量的研究

2. 研究対象

A県下6つの病院の、一般病棟に勤務している、管理職以外の正職員の看護師 686名

3. 調査期間

平成18年9月1日～同年9月30日

4. 質問紙の作成

構成要素の検討で抽出したコードごとに質問項目を作成し、内容が意図した内容を反映しているかを吟味するために、元のコードと照らし合わせ文章を検討した。コード間で内容の持つ意味合いがあいまいなものは、再び元のコード内容を吟味し直し、プレテストにて洗練化を図った。この作業を基に25問の質問項目から成る5段階のリッカード尺度を用いた質問紙を作成した。

5. 分析方法

基礎統計、重回帰分析、相関分析した。

6. 倫理的配慮

文書で研究の要旨、個人が特定できない配慮を説明し、同意を得た。配布は病棟師長に依頼し、回収は留め置き法と郵送とした。

【結果および考察】

看護師 434 名から回答を得た。回収率 63.1%、有効回答率 98.8%であった。

重回帰分析（ステップワイズ法）の結果 ($R^2=0.226$ 、調整済み $R^2=0.222$ 、 $p=0.000$) では、「段取り」を目的変数とすると、「状況変化を見通しながら仕事を行う」 ($\beta=0.355$) と「人に頼らず業務ができる」 ($\beta=0.187$) が説明変数として採択された。「状況変化を見通しながら仕事を行う」を目的変数とすると「スケジュールを調整しながら業務を行う」 ($\beta=0.348$) 「時間配分を考えながら業務を行う」 ($\beta=0.260$) 「優先順位を考えながら業務を行う」 ($\beta=0.560$) 「看護サービスを提供できる知識がある」 ($\beta=0.107$) が説明変数として採択された。

また、「人に頼らず業務ができる」を目的変数とすると、「必要な看護技術を持っている」 ($\beta=0.427$) が説明変数として採択された。日本看護協会は、新卒看護師の看護基本技術に関する実態調査を行い、看護基本技術の教育の必要性を強調している。同様に佐藤²⁾ は新人看護師の看護基本技術について「看護師として自立していくのに必要な技術が十分に習得されていない。」と述べている。今回の研究でも看護師が自立するためには、技術の要素が大きな影響を持っていることがわかった。

これらのことから看護サービスの段取り力を上げる為には「人に頼らず業務ができる」と「必要な看護技術を持っている」が必須であり、「状況変化を見通しながら仕事を行う」が必要である。さらに「状況変化を見通しながら仕事を行う」ためには業務を調整し、時間配分を考えながら、優先順位を決定し、看護の知識や病院のシステムなどの知識が必要ということが考えられる。

看護の専門能力については、多くの卒後教育が行われている。しかし、スケジュールの調整に関しては、日常の中で先輩看護師やプリセプターにより、効率よく安全に業務を進めて行けるように直接指導を行っているのが現状である。今後は先輩看護師が日々指導しているスケジュールの調整に関する内容が段階的にプログラム化され、研修に組み込まれる事で効率的な看護サービスの段取り力の向上につながるのではないかと考える。

【結語】

1. 看護サービスの段取り力の向上には、看護技術を習得する事が優先課題である。
2. 段階的にスケジューリングを含んだ研修を組み込んでゆく事が今後の課題として挙げられる。

引用・参考文献

- 1) 岡谷恵子：看護白書, 日本看護協会出版会, 2005
- 2) 佐藤エキ子：新卒看護師の“看護基本技術”をめぐって, 看護, 55(8), 34-35, 2003

〔平成 19 年 10 月 25・26 日 第 38 回日本看護学会 看護管理（和歌山）にて示説発表〕